女子短大教育での Web 共有教材製作と協同作業

Collaborative Learning Environment for Financial Analysis

藤　本　孝一郎*
Ko-ichiro Fujimoto

概要：短期大学部での経営分析の教育にインターネット・LAN 環境を利用した。Web 上で利用できる教材を協同で製作することで，学習者の興味喚起や知識習得の促進等の効果を目標とした。

1. はじめに

近年，多くの大学で情報機器によるネットワーク環境は徐々に整えられて来ている。また情報教育をはじめ情報ネットワークを利用する教育効果の向上のため様々な試みが為されている。ところで財務分析の学習は，一つの論点に絞る学習に加え，実際の企業取引を処理する過程を理解することで学習効果が高まるという側面がある。そこで情報ネットワーク環境を活用し，協同作業によって知識習得と問題解決を目的とした企業取引の推移を示す学習テキストを，学習者自身が Web 上で製作することで，財務分析授業での学習を支援する方法を考えた。より発展的な教育効果がネットワークを利用した協同課題製作という方法によって期待できると考えた。城西大学女子短期大学部の経営学科のゼミナール授業で実践した。

2. 目的と方法

2.1 目　　的

財務分析の基礎論点テキストをホームページ上に共同しながら製作する。授業進行を大学での既存のネットワークシステムを利用した。

2.2 方　　法

2.2.1 ネットワーク環境の利用

学内 LAN システムを利用した。平成 12 年度のゼミナールの演習授業で 10 名程度の学生を対象

* 城西大学女子短期大学

に，パーソナルコンピュータ 30 台の教室で実践した。

サーバ：WindowsNT Server 4.0（メモリ 64 MB 以上），クライアント：Windows95（メモリ 64 MB 以上）および WindowsNT 4.0，10 BASE-T による 10 Mbps のネットワーク接続環境である。

なお授業外での各自作業で，別教室を利用することもある。

2.2.2 データ

テキスト教材を配布し，さらに進度に応じて貸借対照表と損益計算書データを教員ページに用意している。学生は適宜ダウンロードし各自の作業に利用する。

2.2.3 表計算ソフトウェアによる分析

基本的に WORD98 によって製作を進め，計算関係部分は表計算ソフトウェアにより製作を進めた。

3. Web 教材シナリオによる授業概略

授業全体を次のような過程で構成した。週 1 日 1 時限でおおよそ 6 ヶ月の授業期間で実施した。履修学生ごとに分担したテーマおよび資料を与え，製作を開始した。

学習目標の説明・今回テーマに関連する財務分析知識の概略講義
↓ 要約ファイルの配布
学内 LAN についての基礎知識の講義
↓ 一斉授業
教授者からのテーマページの提示とともにクラス員個別テーマの提示
↓ ダウンロード・個別学習（以下資料収集を含む）
↓
クラス員の表計算ソフトウェアによるデータ処理
↓
ワープロソフトによる HTML ファイル化
（各人担当ページ製作・個別学習）
↓修正作業
Web 教材のアップロード
↓
個別および集団学習
↓電子メール
↓各担当者のリンクの集約
↓
Web 教材の総合
↓評価／講評

4.　Web 共有テキストの製作と考察

4.1　テーマの設定

財務分析での個別学習テーマを設定した。財務分析指標の意義と，分析例題案の提示および演習課題の意義を作業前に示した。また作業方法のガイドラインを提示した。

4.2　統合作業でのコミュニケーション

当初の目標として，各人別のページを一つの共有テキストにまとめるため，相互にブラウズすることを考えた。しかし製作進度のばらつきが予想よりも大きく，基本的なメニューを形成することで終了した。

4.3　成果と課題

・学習者のほとんどがページ作成の作業を楽しみながら行い，興味が派生的に拡がった。
・ほとんどの学習者が財務分析問題を解答してゆくよりも興味深さを強調している。
・作成を通じて情報活用能力が高まったと感じている。
・学習者が入力した情報と他学習者のページに重複が多くみられた。

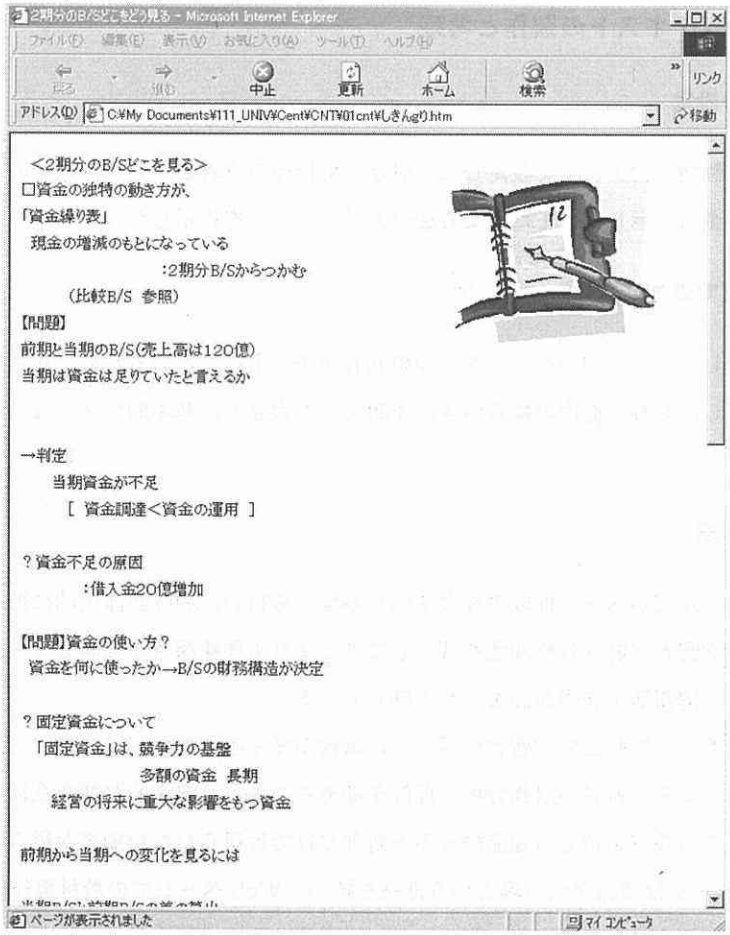
この授業方法による学習者の財務分析の理解を深めることと，自主的な探究意欲の向上を期待していた。通常授業の論点学習での知識の入手と処理だけでは得られない効果が得られたものと思う。

本来，Web ページは情報発信の場という性格を持つ。Web ページでの教材製作は学習者の理解の結果を形成してゆくことであるが，特に，ページを視る側の立場を常に考えることが要求されるという特徴的な思考が求められている。この方法は受け身で学習することを，情報の発信者となることで情報発信，情報受容者としての実体験を通して能動的に学習させるということともいえる。一応の学習成果が得られたものと思う。

4.4　統合の過程でのさまざまな問題

各人別の作業目標のページ製作よりも，この統合の過程での，内容決定で多くの問題が生じた。教授者の予想の範囲を超えたものもあり，授業計画の今後の修正の必要を感じさせた。

図：教　材　例



5. おわりに

現在，今回の実践を通じた問題点等をまとめているが，できあがったWeb教材は一種の「参画型Webページ」ともいいうるようなものとなった。さらに統計処理をすすめたデータや，グラフ表示に工夫を加え様々な発展が可能である。また汎用的なソフトウェアを使ったことで，容易な利用が可能となっている。今後は，インターネットでの資料収集を利用した授業支援システムとして発展させてゆきたい。なお音声データの入力も試みたが，次の機会でより活性化した利用を考えたい。

参考文献

1) 大野敏男「財務分析の実践活用法」経済法令研究会（1997 年）
2) 染谷恭次郎「キャッシュフロー会計論」中央経済社（1999 年）
3) 田中雅康「原価企画の理論と実践」中央経済社（1995 年）
4) 野村秀和「企業分析」青木書店（1995 年）
5) 新井清光「最新簿記論」中央経済社（1993 年）
他